

＜令和2年度における府債発行の振り返り＞

○ 発行計画の増額対応(7,100億円 → 7,900億円)

- 第18回大阪府財務マネジメント委員会で示した令和2年度大阪府債発行計画(案)において、令和2年度出納整理期間(令和3年4月・5月)からの前倒し発行等による増額分800億円のうち、銀行等引受債で発行する300億円を除いた500億円について「変動要素 α 及び β 」としていた。
- 「変動要素 α 及び β 」については、 α をフレックス枠、 β を共同発行債とし、共同発行債の新制度の持寄額が確定次第、フレックス枠と共同発行債で調整しながら発行することとしていたが、より機動的に発行できるフレックス枠を活用した結果、 α は500億円となり、フレックス枠は1,400億円となった。
- 大阪府の資金状況を踏まえ、フレックス枠については12月までに発行を完了するよう前倒しした。
- 令和2年度大阪府債発行計画(案)(第18回大阪府財務マネジメント委員会時点)

(単位:億円)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計	10月	11月	12月	1月	2月	3月	下半期計	合計	
市場公募債	10年	200	200	200	200	200	200	1,200	200	200	200	200	200	200	1,200	5,700	
	5年	200	200	200	200	200	200	1,200	200	200	200	200	200	200	1,200		
銀行等引受債	証券	5年	-	-	100	-	-	100	100	-	100	-	-	-	200		
	証券	5年	-	-	200	-	-	200	200	-	200	-	-	-	400		
フレックス枠		900+ α															900+ α
共同発行債		800+ β															800+ β
合計																7,400+ α + β	

令和2年度大阪府債発行計画(現在)

(単位:億円)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計	10月	11月	12月	1月	2月	3月	下半期計	合計	
市場公募債	10年	200	200	200	200	200	200	1,200	200	200	200	200	200	200	1,200	5,700	
	5年	200	200	200	200	200	200	1,200	200	200	200	200	200	200	1,200		
銀行等引受債	証券	5年	-	-	100	-	-	100	100	-	100	-	-	-	200		
	証券	5年	-	-	200	-	-	200	200	-	200	-	-	-	400		
フレックス枠		-	-	-	-	-	650	650	350	-	400	-	-	-	750		1,400
共同発行債		100	100	-	-	-	100	300	100	100	-	100	100	100	500		800
合計																7,900	

<令和2年度における府債発行の振り返り>

○ 超長期債における発行年限の多様化

- ・ 令和2年度フレックス枠を活用した超長期債の発行において、既に発行経験のある20年満期一括債のほか、投資家需要を機動的に捉え、15年満期一括債を9月に、25年満期一括債を12月に、大阪府債として初めて発行した。これにより、令和3年度の資金調達に向けて、発行年限を多様化した。

(参考: 令和2年度超長期債発行実績)

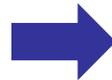
	9月	10月	12月	合計	
25年債(満期一括)	—	—	150億円	150億円	1,400億円
20年債(満期一括)	300億円	—	150億円	450億円	
15年債(満期一括)	350億円	350億円	100億円	800億円	

○ 平均発行年限及び平均調達期間の長期化

- ・ フレックス枠を500億円増額し、超長期債の発行年限を既存の20年債に加え、多様化(25年債・15年債の発行)した。
 - ・ 令和2年度の府債発行においては、資金状況を踏まえ、満期まで元金の償還が発生しない満期一括債で発行した。
- これらの結果、大阪府債の平均発行年限及び平均調達期間は長期化した。

(参考: 令和2年度発行計画(当初)のポートフォリオ)

平均発行年限	9.44年
平均調達期間	8.72年



(参考: 令和2年度発行計画(最終)のポートフォリオ)

平均発行年限	9.65年
平均調達期間	9.65年

※ 平均発行年限：発行年限を発行額で加重平均したもの。

※ 平均調達期間：発行年限を発行額で加重平均する際、定時償還債の発行年限を平均残存年数に補正したもの。